● 授業科目の内容紹介

国語国文専攻

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
日本文学論	**4**		**国**	**1**	**尾崎富義**

Ⅰ　主題
日本文学の研究における民俗学的研究方法の可能性と理解を主題とする。

Ⅱ　授業の到達目標
1.折口学の理解をとおして、古代文学がいかに発生したかについて考える糸口となる。
2.折口学について学び、文学研究の民俗学的研究方法の可能性について考察できる。
3.日本民俗学の知識を利用して、見過ごしがちな日常生活上の信仰や習慣の理解に応用できる。

Ⅲ　授業の概要
主として演習を中心にしながら講義で補足説明をする。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1～ 2 「折口学」の解題	・折口学の特徴、文学の民俗学的方法について
3～ 5 「妣が国へ・常世へ」(常世論1)	・常世観の成立、異郷意識の展開とマレビト。
6～10 「古代生活の研究」(常世論2)	・常世の意義、祖先神の来訪、根の国の観念。
11～15 「若水の話」	・日本古代の霊魂観、沖縄の若返りの水、若水を汲む民俗。
16～20 「最古日本の女性生活の根柢」	・神を祀る女、名と結婚の民俗。忌籠りの民俗。
21～26 「水の女」	・聖水を司る女、ウブユとミソギの意義、タナバタツメと天の羽衣。
27～30 「餓鬼阿弥蘇生譚」	・ヨミガエリの信仰、小栗判官と照手姫、説経節と浄瑠璃と。

Ⅴ　使用テキスト・教材等
『古代研究』Ⅰ　　(中公クラシックス)

Ⅵ　参考書・参考資料
折口信夫事典　　西村亨編　　大修館書店

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 (　　)
配点比率(%)　合計 100		60	20	20	
折口用語の理解		○	○	○	
折口学説の理解		○	○	○	
日本古代の信仰と呪術		○	○	○	
文学の民俗学的方法		○	○	○	
沖縄地方の民俗		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
各自、事前にテキストを十分に読んでおくこと。『折口信夫事典』等を参考に、折口用語の意味、担当部分の要約等をプリント資料として発表する。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
授業に関係のない私語は慎むこと。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
国語表現論	**2**		**国**	**1**	**中村国男**

Ⅰ　主題

現代における日本語表現の優れた代表的な作家として遠藤周作の随想や小説を鑑賞し、その奥深い魅力を理解する。遠藤周作の作家としてのテーマを一言で言えば「無償の愛の追求」と言えるが、その表現のされ方は、純文学、大衆文学、ユーモラスなエッセイなど、多彩である。それを学ぶことによって、おびただしい種類の器のような豊かな国語表現の世界が確認できる。

Ⅱ　授業の到達目標

1.作品を読んで作家の問題認識に興味関心を持つことができる。
2.発表する新聞雑誌や、想定される読者に応じた作家の工夫が理解できる。
3.国語表現の多様さに関する自分の見解を表現できる。

Ⅲ　授業の概要

最初から数回はプリント資料を用いて随想の学習をする。次いで芥川賞受賞作とそれに関連する作品について学習し、遠藤周作の作家としてのテーマを確認する。その間、各自で 2 冊のテキストを読破しておくこと。6回目の授業からテキストを用いて学習する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.　軽妙な随想	狐狸庵シリーズから、まずは遠藤周作入門
2.　真摯な随想	一転して真面目な人生論、恋愛論を読む
3.　東西文化論	東西の歴史や宗教に関する論を読む
4.　初期の小説1	「白い人」を味わう
5.　初期の小説2	「黄色い人」を味わう
6.　私が・棄てた・女1	「私が・棄てた・女」を味わう
7.　私が・棄てた・女2	〃
8.　私が・棄てた・女3	〃
9.　私が・棄てた・女4	〃
10.　討議とレポート1	「私が・棄てた・女」の主題と書き味をめぐって
11.　沈黙1	「沈黙」を味わう
12.　沈黙2	〃
13.　沈黙3	〃
14.　沈黙4	〃
15.　討議とレポート2	「沈黙」の主題と書き味をめぐって

Ⅴ　使用テキスト・教材等

私が・棄てた・女	遠藤周作	講談社文庫
沈黙	遠藤周作	新潮文庫

上記以外はプリントを使用する

Ⅵ　参考書・参考資料

授業中に適宜指示する。また、自身で探し出す努力を期待する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 (　　)
配点比率(%)　合計 100	40	30		30	
作家への興味関心	○	○		○	
作家の工夫への理解	○	○			
自己の意見の表現	○	○			

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

初回に指示した作品をできるだけ早く読破しておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

自分の意見を積極的に言えるようにすること。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
国語学特論	**4**		**国**	**1**	**岡墻裕剛**

Ⅰ　主題

文字という言語現象に注目し，漢字や仮名といった文字標記が日本語と日本文化に与えてきた影響について学習し，日本語の特徴について考察する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.国語学的な見地から日本語の特徴を客観的に把握する。
2.文字と日本文化との関係性について理解する。
3.授業を通して国語学的な研究方法を学び，研究成果を報告する。

Ⅲ　授業の概要

国語学に関する事項を中心に，前期は教員による講義形式での授業を主体とするが，後期は受講生参加型の実習・報告形式での授業の割合を多くする。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	前期ガイダンス	
2-4.	文字通史	文字の歴史を学ぶ
5-7.	漢字	漢字に関して学ぶ
8-10.	ひらがな	ひらがなに関して学ぶ
11-12.	カタカナ	カタカナに関して学ぶ
13-14.	表記の近代化	明治以降の日本語情勢を学ぶ
15.	前期まとめ	
16.	後期ガイダンス	
17-22.	文字資料	実際の文献を通して文字を学ぶ
23-25.	調査発表 1	受講生による 1 回目の調査発表
26-29.	調査発表 2	受講生による 2 回前の調査発表
30.	授業のまとめ	

Ⅴ　使用テキスト・教材等

なし。適宜プリントを配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

授業内で適宜指示する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 (　　)
配点比率(%)　合計 100		40	30	30	
日本語の特徴の理解		○		○	
文字の役割の理解		○		○	
国語学に関する調査発表の完成度			○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

復習：授業内容は次週までに各自で自習して理解すること。
予習：調査発表に向けて各自で準備すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業中は発言等の積極的な参加・貢献を求める。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
国文学演習Ⅰ		〔2〕	国	1	**尾崎富義**

Ⅰ 主題

『万葉集』巻二を読む。ウタとは何か。古代和歌の表現様式、万葉のことばの意味などを学ぶことによって、『万葉集』の理解を深めることを主題とする。

Ⅱ 授業の到達目標

1.『万葉集』を読むことによって、ウタとは何か、古代和歌の表現様式について理解することができる。
2.万葉の歌を理解することによって、奈良時代の人々の生活や信仰まで考察できるようになる。
3.和歌の知識を利用して、平安朝の勅撰和歌集など国文学史の学習に応用できる。

Ⅲ 授業の概要

演習形式で行う。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1～ 4. 『万葉集』の解題	『万葉集』の成立・名義・時代区分・編者等 『万葉集』に関する基礎的知識を学習する。
5～ 9. 「近江荒都歌」	近江大津宮と壬申の乱、荒都をうたう意味、人麻呂歌の特徴。
10～12. 「吉野讃歌」	吉野の歴史と信仰、持統天皇の吉野行幸、山川対比の讃歌。
13～15. 「伊勢行幸歌」	伊勢神宮の祭祀と伊勢行幸の背景、留守歌の系譜。
16～18. 「阿騎野遊猟歌」	阿騎野の風土、王権と狩猟、コモリの古代的意義。
19～22. 藤原の宮関係歌」	藤原宮の造営と遷都の歴史的背景、宮都讃歌の特徴。
23～24. 「紀伊国行幸関係歌」	紀伊国行幸の意味、歌枕について。
25. 「参河国行幸歌」	「引馬野」はどこか、高市黒人の歌の特徴。
26～28. 「長皇子の歌」	羈旅歌について、長皇子の歌の特徴。
29～30. 「遣唐使関係歌」	遣唐使の歴史、遣唐使歌の特徴。

Ⅴ 使用テキスト・教材等

『万葉集　全注釈』一（講談社文庫）　中西進　講談社
『万葉集を知る事典』　桜井満監修　東京堂

Ⅵ 参考書・参考資料

「Ⅸ その他」参照

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 ( )
配点比率(%)　合計 100		60	20	20	
万葉集に関する基礎知識		○	○	○	
万葉時代の歴史と社会		○	○	○	
相聞歌の表現と様式に関する理解		○	○	○	
万葉の歌ことばの理解		○	○	○	
柿本人麻呂作品の理解		○	○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

レポーターは、事前に必ず発表資料を配布する。学生は当日の授業で行うテキスト範囲と発表資料に必ず目を通し、不明の点については、以下に示す参考文献に当たり学習をしておくこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

・『万葉集注釈』（沢瀉久孝）・『万葉集全注二』（稲岡耕二）・『万葉集釈注』（伊藤博）・『万葉集私注』（土屋文明）などの註釈類、『万葉集索引』（塙書房）などの索引類、その他辞書類。
・授業に関係のない私語は慎むこと。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
国文学演習Ⅱ		〔2〕	**国**	**1**	**瀬戸宏太**

Ⅰ　主題

作品世界が一つの物語として力強く展開されていくあり方を見据えていく。

Ⅱ　授業の到達目標

1.作品に問題意識を持って向かい合うことができる。（文学への関心の深化）
2.先行文献を参照し、注釈等をこなすことができる。（文学研究の方法に習熟）
3.発表後の討論を、進んで展開させることができる。（コミュニケーション力）

Ⅲ　授業の概要

演習科目なので受講者の意欲次第で展開は大きく変わる。原則としては、複数の注釈書を参考にしながら、自分たちなりに源氏物語の注釈・鑑賞をしていくことが柱となる。扱う範囲についても受講者と相談して決めていく。

Ⅳ　授業計画と内容

演習の展開例として、若菜巻を扱った場合に取り上げていくべき項目を掲げる。

項　目	内　容
1- 2.藤裏葉巻の栄華の質	源氏物語第二部へと連なる要素の確認。
3- 4.若菜巻冒頭の敬語と挿入句	物語はいかに新しく始まろうとしているか。
4- 6.朱雀院の婿選びの論理	平安時代の女君たちが置かれた現実。
7- 8.脇役たちの造形	物語世界の近代性と方向性との関わり。
9-10.光源氏にとっての藤壷の血筋	源氏物語の根底を流れる論理の位置づけ。
11-12.女三宮降嫁直後の表現技法	時間を重複させる表現手法の持つ意味。
13-14.紫上の苦悩	光源氏と紫上との紐帯をどう読み解くか。
15-16.光源氏の威力と女三宮	女三宮が六条院世界にもたらす波紋の質。
17-18.光源氏の道心と朱雀院の発心	敗者の論理と対峙する物語世界の検証。
19-20.朧月夜訪問の理由	光源氏の「いろごのみ」を再考する。
21-22.光源氏の四十賀をめぐって	いわゆる内的時間と外的時間をめぐる考察。
23-24.光源氏の栄華と明石一族	光源氏の栄華についての再検討。
25-26.柏木惑乱の端緒と遠因	次世代の貴公子たちを描くことの本質。
27-28.源氏物語にとっての光源氏	源氏物語における主人公の存在意義。
29-30.源氏物語の行方	源氏物語第三部を胚胎していく論理の追跡。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

源氏物語（全）　　今泉忠義他編　　おうふう

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 ／ 学習項目	試験	レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 （　　）
配点比率(%)　合計 100		30	30	40	
文学への関心の深化		○	○	○	
文学研究の方法に習熟		○	○		
コミュニケーション力			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

なるべく早い時期に源氏物語を通読しておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

発言が皆無であるなど、授業態度に積極性が認められない者は、欠席扱いとする。成果発表として、年度末にレポートを課す。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
国文学演習Ⅲ		〔2〕	国	1	**大川信子**

Ⅰ 主題

井原西鶴、近松門左衛門の作品を通して、近世文学の特性について学ぶ。庶民文学の時代といわれる江戸時代前期に多くの作品を残した二人の文学の共通基盤やジャンルによる相違点を知ることで、時代とのかかわりのなかで生み出される文学の本質に迫る。

Ⅱ 授業の到達目標

1.時代と文学との関わりを理解し、文学の存在意義について考えることができるようになる。
2.先行文学の影響を理解し、文学の展開について考えることができるようになる。
3.版本を読むことを通して、文字理解を深めることができるようになる。

Ⅲ 授業の概要

作品理解の前段階として、時代と作家について学ぶ。近世文学の基盤にある誹諧について学び、ついで版本・台本を読む作業を通して近世文学を代表する二人の作品を熟読していく。演習内容としては、翻字ならびに作品読解に関する課題

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1. 授業ガイダンス-変体仮名入門-	16.近松門左衛門入門
2.『西鶴諸国はなし』序文判読	17.人形浄瑠璃の構造
3. 近世文学の背景-政治・経済を知る-	18.人形浄瑠璃の語り
4. 近世文学の担い手-庶民生活と文化-	19. 人形浄瑠璃の担い手たちを知る
5. 俳諧の歴史	20.『曽根崎心中』概要　Ⅰ
6. 俳諧と西鶴・近松	21.近松作品の修辞-先行文芸からの影響
7.『西鶴諸国はなし』巻一　翻字	22.近松作品の修辞-表現の多様性
8.「大晦日はあはぬ算用」読解	23. 24　古典芸能鑑賞を通して、文楽と歌舞伎の相違点について考える　Ⅰ
9. 研究論文を読む-成立をめぐる問題-	25.生玉神社の段　前半読解
10.『西鶴諸国はなし』巻三　翻字	26. 生玉神社の段　後半読解
11.「水筋のぬけ道」読解	27.天満屋の段　前半読解
12.「水筋のぬけ道」-作品の背景を知る-	28.天満屋の段　演劇的表現考察
13.『西鶴諸国はなし』巻五　翻字	29.作品鑑賞をとして近松演劇論を考察
14.「提灯に朝顔」読解	30.近世文学の特性　まとめ
15.「提灯に朝顔」-作品の背景を知る	
定期試験　筆記試験	

Ⅴ 使用テキスト・教材等

角川ソフィア文庫『曽根崎心中・冥途の飛脚・心中天の網島』	近松門左衛門／諏訪春雄訳注	角川書店
仮名変体集	伊地知鉄男	新典社

Ⅵ 参考書・参考資料

和歌文学辞典	有吉保編	桜楓社
新編日本古典文学全集『近松門左衛門集(2)』	鳥越文蔵	小学館
新編全集『井原西鶴集(2)』	宗政五十緒	小学館

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 ( )
配点比率(%)　合計 100	50	20	20	10	
和歌の力・和歌史を理解	○	○		○	
和歌に関する研究、発表	○		○	○	
和歌理解力の敷衍	○	○			

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意：欠席・遅刻・懈怠は、成績の漸減を生じるので注意すること。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
言語学演習		〔2〕	**国**	**1**	**澤崎宏一**

Ⅰ　主題

この授業では、日本語と他の言語との関係を学ぶ。また、日常生活ではあまり意識することのない日本語のしくみについても学習する。

Ⅱ　授業の到達目標

1. 世界の言語と日本語がどのような関係にあるかがわかるようになる。
2. 日本語の文法やしくみについて、問題点を把握できるようになる。
3. 日本語を含めたことばのしくみについて、ある程度客観的な見方ができるようになる。

Ⅲ　授業の概要

講義形式ではなく対話型の授業である。様々な資料から、日本語の姿を見つめることを目指す。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.　授業ガイダンス	マクロ・ミクロ的視点についての話
2- 5.　日本語と世界の言語	語族の視点から見た日本語の系統
6- 8.　日本の中の言語	アイヌ語や日本語の方言について
9-10.　日本と世界の文字	漢字文化圏の文字の発達と非漢字文字
11-12.　日本の言語政策	ローマ字化運動、当用・常用漢字など
13-15.　世界の日本語教育	日本語教育の諸問題や第二言語習得論
16-18.　日本語の母音と子音	日本語の母音と子音の特徴、連濁
19-21.　日本語の韻律	モーラ、音節、アクセントなど
22-23.　日本語の動詞の種類	ル動詞・ウ動詞、自他動詞
24-26.　日本語の様々な構文	受け身文、使役文、受益構文など
27-28.　日本語の主語と主題	「は」と「が」と「の」の話
29-30.　日本語の敬意表現	敬語の種類と使い方、ら抜き言葉など

Ⅴ　使用テキスト・教材等

ハンドアウト、視聴覚教材を必要に応じて使用する

Ⅵ　参考書・参考資料

やさしい日本語のしくみ　　庵功雄・日高水穂・前田直子・山田俊弘・大和シゲミ　　くろしお出版　　2003

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 (　　)
配点比率(%)　合計 100%	25	25		50	
約 2 単元に 1 度の確認テスト		○		○	
日本語の系統やしくみの総合理解	○			○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

年間 6 回前後、それまでの授業の確認テストを行うので、学習事項の復習を欠かさないこと。
予習事項が指定されている場合は、授業中に配られるハンドアウトに目を通しておくこと。
参考書は，購入してもしなくても構わない。読んでおくと，授業理解の助けになる。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業を聞くだけでなく、教師からの問いかけに対して積極的に発言することが望まれる。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
国語学講読		**4**	**国**	**1**	**久島茂**

Ⅰ　主題
日本語の基礎的な知識を身につける。

Ⅱ　授業の到達目標
1.音声の基礎と歴史を理解する。
2.文法の主要項目を理解する。
3.語の意味の理解を深める。

Ⅲ　授業の概要
音声については基礎的事項と歴史的変遷を概説する。文法は、現代語の分析、古典との違いを取り上げる。語の意味については、問題の発見方法と体系の考え方を述べる。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. 音声器官とは	人間はなぜ言語音を作れるのか
2. 音声の分類と記号	音声の表記を学ぶ
3. 音韻とは	音声と音韻の違い
4. 表記	音韻と表記のずれ
5. あめつちの詞、いろは歌	時代的な違い
6. 五音(五十音)	成立事情と用途
7. 源氏物語、方丈記の原音読み	当時の具体的な音声を知る
8. 9. 奈良時代の音声	研究と成果
10.11. 室町末期の音声	研究と成果
12. ボイス	体系として考える
13.14. アスペクト、テンス	研究と成果
15. 助詞の歴史的変遷	「が」「の」の用法
16. 係り結び	崩壊の理由
17 活用形式の変遷	変化した理由
18. 固有名詞、指示語	意味とは何か
19. 上位語、下位語	自然分類と人為分類
20. 反義語	「暑い」「寒い」は反義語か
21. 多義語	意味の多様性
22. シソーラス	語の分類の可能性
23. 意味変化の型	変化の方向性
24. 日常語の意味	日付と日数の違い
25. 色彩語彙	語彙の序列性
26. 温度語彙	「涼しい」「ぬるい」の分析
27.28. 空間の語彙	「高い」と「広い」
29.30. 物体の語彙	「長い」「大きい」

Ⅴ　使用テキスト・教材等
プリント配布

Ⅵ　参考書・参考資料
授業時に指示

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 (　　)
配点比率(%)　合計 100	70	20		10	
音声の理解	○	○		○	
文法の理解	○	○		○	
意味の理解	○	○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
復習を十分すること

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
授業で疑問があれば質問すること

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
漢文学講読		**4**	**国**	**1**	**繁原央**

Ⅰ　主題

中国の古典であり、日本の文化の基礎となった漢文を読むことで、読解力をつけるとともに、中国と日本の文化の違いを理解し、比較考察できるようになること。

Ⅱ　授業の到達目標

1.漢文の文章が読めるようになること
2.中国の小説の理解と、背景となった文化の理解ができること
3.日中の文学の比較考察ができること

Ⅲ　授業の概要

毎回、漢文の小説を用意するので、その読解をとうして、漢文の読解力をつけるとともに、その作品に関する背景の文化を追及する。志怪小説や伝奇小説の面白さを味わってほしい。

Ⅳ　授業計画と内容

1、オリエンテーション　漢文の基礎知識について
2、中国の小説について　概説
3～ 7、志怪小説　捜神記を読む
8～10、伝奇小説を読む　補江総白猿伝
11～13、枕中記を読む
14～15、離魂記を読む
16、中国人の発想について
17～19、李娃伝を読む
20～22、杜子春伝を読む
23～24、謝小娥伝を読む
25～28、長恨歌伝を読む
29、中国説話の比較について
30、まとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等

対偶文学論	繁原　央	汲古書院	2014

Ⅵ　参考書・参考資料

中国小説選　全 12 冊	竹田　晃編	明治書院	2008
唐代伝奇	内田泉之助	明治書院	昭和 46

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 ／ 学習項目	レポート	授業態度	小テスト		
配点比率(%)　合計 100	50	30	20		
漢文の読解		○	○		
文化の理解	○		○		
比較・考察	○				

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

配布した漢文を書き下し文にし、意味も考えてくること。参考書を手掛かりにすること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
情報文化論		**4**	**国**	**1**	**平井修成**

Ⅰ　主題

「情報文化」についての、歴史、現状を理解し、これを利用する力を養う。

Ⅱ　授業の到達目標

1.人間と「情報」との関わりについて、歴史的な知識を持つ。
2.現代社会に於いて、「情報」が社会や文化に占める意味を理解する。
3.情報を主体的に利用し、発信する能力を涵養する。

Ⅲ　授業の概要

この授業では、ネット上に専用のブログを用意し、教員の提供する資料と、履修者のコメントとを組み合わせつつ、理解の徹底と考察の深化を計りたい。

Ⅳ　授業計画と内容

1・ 2.	情報とは何か①	情報が価値を持つために
3・ 4.	情報とは何か②	情報の価値を担った人々
5・ 6.	情報を操作する①	隠される情報と強調される情報
7・ 8.	情報を操作する②	好まれる情報と嫌われる情報
9・10.	情報を操作する③	嘘を吐かずに偽る方法
11・12.	社会と情報①	情報の尊重?古今伝授の世界
13・14.	社会と情報②	情報の開放?百科全書の世界
15・16.	情報化社会の条件①	工業製品としての紙
17・18.	情報化社会の条件②	教育の普及
19・20.	情報化社会の条件③	遊ぶ人々
21・22.	情報化社会の功罪①	マスメディアとは何か
23・24.	情報化社会の功罪②	インターネットは弱者のメディア
25・26.	実践してみよう①	情報を効果的に発信する
27・28.	実践してみよう②	情報操作を見抜く
29・30.	addition	Windows の彼方に?Puppy Linux 入門

Ⅴ　使用テキスト・教材等

プリントや電子データを配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他（ ）
配点比率(%)　合計 100	40	20	20	20	
歴史的知識の獲得	○				
現状の理解	○	○	○	○	
利用・発信力の獲得		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

新聞、その他のニュースに常に注目していること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

知的な興味を持って、楽しんで欲しい。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
静岡の文化		**2**	**国**	**1**	**繁原幸子**

Ⅰ　主題

静岡県はそれぞれの地域で様々な文化が伝承され、その地域を特徴付けている。これらの事例を他地域の文化と比較しながら民俗学的考察で読みとくことを学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.静岡各地の民俗文化に対する知識が深まる。
2.様々な民俗文化を知ることで、静岡の文化に対しての理解が深まる。
3.静岡の民俗文化が現在どう生かされているか考察できるようになる。

Ⅲ　授業の概要

フイールドワークによる具体例のパワーポイントやビデオやDVDあるいは実物を見て静岡の文化に対する理解を深める。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. オリエンテーション	授業展開と民俗文化の概説
2. 津波などの災害と民俗	静岡の災害がどう伝承されたか考察する。
3. 静岡の衣服(1)	衣服の呪術性を考える。
4. 静岡の衣服(2)	他から導入された衣服から人の流れを考える。
5. 山間地の雑穀文化	焼畑文化と雑穀の今昔を考察する。
6. 山間地の狩猟文化	今静岡の山間地で何が起きているかを学ぶ。
7. 海の文化(1)	漁師の生活や信仰の今昔を考察する。
8. 海の文化(2)	漁師町の食生活・衣生活を知る。
9. 静岡の年中行事(1)	年中行事の意味とその成り立ちを知る。
10. 静岡の年中行事(2)	静岡と他地域の年中行事を比較する。
11. 静岡の人生儀礼(1)	結婚と出産・育児の今昔を考察する。
12. 静岡の人生儀礼(2)	年祝いと葬式の今昔を考察する。
13. 祭り文化(1)	伝統の祭りの変容と問題を考える。
14. 祭り文化(2)	各地の祭りと静岡の祭りを比較する。
15. まとめ	今までの授業から静岡の文化を考察する。
定期試験	筆記試験(論述式)

Ⅴ　使用テキスト・教材等

特に定めない。その都度
教材プリントを配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

授業時紹介

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 (　　)
配点比率(%)　合計 100	50	30		20	
静岡の文化に対する基礎知識	○	○		○	
静岡の文化に対する関心の深化	○	○		○	
静岡の文化に対する考察力	○	○			

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

新聞記事をよく読むこと。常に静岡の文化に関心を持ち、注目しておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

日常生活に近い事例もあるので、発言など積極的な参加を求める。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
日本民俗文化論		**4**	**国**	**2**	**吉川祐子**

Ⅰ 主題

日本の民俗文化の本質をとらえ、日本人を知る。

Ⅱ 授業の到達目標

1.日本の民俗文化の本質がとらえられるようになる。
2.学んだ民俗文化と日常生活を比較して考察できるようになる。
3.学んだ知識を日常生活に活かせるようになる。

Ⅲ 授業の概要

テキストや映像資料から、日本の民俗文化の本質がどこにあるのかを考察する。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1	オリエンテーション	年間授業計画、「民俗文化」の定義、年間個人目標の決定
2	子どもの誕生	男性が恐れた出産、そのわけを考える。
3	子ども組の行事	遊び組と行事組、子ども会との違いを学ぶ。
4-5	節供と凧揚げ	人の成長と農耕との関係を考える。世界比較をする。
6	昔話と子育て	今最も人気のある子育て文化「昔話」を考える。
7-8	フィールド調査とまとめ	瀬名地内を歩いて民俗に触れ、レポートにまとめる。
9	年齢階梯制度	子ども組と子供会、若者組と村組織、家族と隠居を考える。
10	伊勢神宮と民俗	伊勢神宮の遷宮に関与する人びとの民俗を知る。
11	七夕と盆行事	岐阜の初七夕行事から長男の立場と子育てを学ぶ。
12-13	盆行事と先祖供養	遠州に残る盆行事を知り、その背景の農耕文化を考える。
14	祇園祭の歴史と民俗	全国の祇園行事本家である京の祇園行事を学ぶ。
15	喫茶の歴史と民俗	お茶の歴史を知って、お茶のある暮らしをより深く知る。
16	レポート発表	前期レポート「家の盆、わたしの盆」の発表をする。
17	火の役割と民俗	日本民俗にとっての「火」とは何かを学ぶ。
18	富士山とかぐや姫	かぐや姫物語の発生と富士山信仰を考える。
19	柳田国男の民俗学	民俗学の成立を学ぶ。
20	秦氏と徐福	徐福伝承から、中国と日本の歴史と民俗を考える。
21	雑穀栽培と調理文化	農民が食べてきた主食の栽培方法や調理法を知る。
22	雑穀を調理する	調理して雑穀料理の工夫を知る。
23-24	安倍晴明と庶民信仰	安倍晴明の実像を知り、様々な民俗文化との関わりを知る。
25	正月行事	正月行事の内容とその意義を考える。
26	寺院の正月行事	新年行事の田遊びや田楽を知り、その意義を考える。
27	レポート発表	後期レポート「家の正月、私の正月」の発表をする。
28	小正月行事	典型的な行事を取り上げ、小正月の意義を考える。
29	アニメと日本文化	日本のアニメは文化として伝承されていくか考える。
30	日本民俗の本質	年間授業から日本民俗の本質を確認する。

Ⅴ 使用テキスト・教材等

静岡県子ども民俗誌	吉川祐子	静岡新聞社	1999

Ⅵ 参考書・参考資料

新民俗学を学ぶ　現代を知るために	八木透	昭和堂	2013

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 ( )
配点比率(%)　合計 100%		60		40	
日本の民俗文化の本質をとらえる		○		○	
民俗文化と日常生活の比較		○		○	
日常生活に活かす		○		○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

ニュース、新聞報道（特に文化報道）に気を配る。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意：授業に関係のない私語は慎むこと。
たとえ辞書使用であっても、携帯電話等の授業時間使用は禁止する。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
児童文学論		**4**	**国**	**1**	**小野田貴夫**

Ⅰ　主題

子どもの視点から、児童文学とは何かを考察し理解する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.児童文学に特徴的な表現を理解する
2.明治以降の児童文学史の基本的な流れを概説できるようになる
3.子供の認識能力に応じた作品の選択ができるようになる

Ⅲ　授業の概要

児童文学について、諸作品の文学史における位置づけを概観しながら、児童文学が作家や編集者また読者にとってどのように理解され扱われたのか理解する。さらに発達心理学的な観点から子どもにとって児童文学とはどのように認識されるものか、実際の表現を対象としながら考察していく。以上から、児童文学を提供する側の認識と、実際の子どもにとっての認識との差異や共通性を理解していく。

Ⅳ　授業計画と内容

1～2.	児童文学らしさとは	
3～4.	作家と作品の概説「あまんきみこ」	(1)名前を見てちょうだい(表現分析)
5～6.	作家と作品の概説「あまんきみこ」	(2)きつねのおきゃくさま(表現分析)
7～8.	作家と作品の概説「新美南吉」	(1)手袋を買いに(表現分析)
9～10.	作家と作品の概説「新美南吉」	(2)ごん狐(表現分析)
11～12.	作家と作品の概説「宮澤賢治」	(1)ガドルフの百合(表現分析)
13～14.	作家と作品の概説「宮澤賢治」	(2)銀河鉄道の夜(表現分析)
15～16.	作家と作品の概説「芥川龍之介」	(1)蜘蛛の糸(表現分析)
17～18.	作家と作品の概説「芥川龍之介」	(2)杜子春(表現分析)
19～20.	子どもの世界観(認知の様式)	映像的な表現／概念的な表現
21～22.	子どもの言語・言語表現	児童文学の固有性
23～24.	反復、擬音語・擬態語、造語について	場面のリアリティーについて
25～26.	物語の表出と子どものための物語	時間表現と物語の複雑さ
27～28.	子どもにとってのリアリティー(概説)	読み聞かせること／自立的に読むこと
29～30.	まとめ	

Ⅴ　使用テキスト・教材等

必要に応じて資料を配布。

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 ／ 学習項目	試験	小レポート	成果発表 作品	授業態度	
配点比率(%)　合計 100	60	30		10	
児童文学に特徴的な表現の理解	○			○	
児童文学史の基本的な理解	○			○	
子供の認識能力に応じた作品の選択力		○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

各回に配布する資料の再読と課題の実施。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
社会学特論		**4**	**国**	**1**	**巻口勇一郎**

Ⅰ 主題
英語原典を通じて社会学、現代社会について考察する

Ⅱ 授業の到達目標
1.高校大学含め８年以上の英語学習を終えた今、英語文献を自力で理解し、社会学に関する理解を深める。
2.社会問題、現代社会と持続可能な社会の在り方に関する理解を深める
3.社会学についての理論的理解を深める

Ⅲ 授業の概要
ベネディクトによれば、日本人は周囲の顔を見て自分の発言をし、自分自身に問いかけて意見を言っていない。自主独行とは欧米の罪の文化であり、日本は外見や生活など表面的にのみ西欧化したということだろうか。この授業では、社会的存在としての人間について考察し、自分が社会に影響されると同時に、どう社会へ働き掛けていくのかについて考える。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1.市民社会、民主主義は死んだ？	決断に群衆の知恵は役立つか？
2.異文化への感性を育もう、アジア文化	気功、ヨガやアーユルヴェーダとは？
3.温暖化人為説について考える	脱石油の可能性を展望する
4.地球温暖化を救う手立てはあるか？	寒冷化、太陽活動説など
5.現代の家族、電撃結婚離婚、家庭崩壊	結婚式を演出する、
6.人間が過激なスポーツに挑むわけ	山頂でアイロン
7.飽食の時代を健康に過ごすには	食について考える、医療人類学
8.ルイ・ヴィトン、ヨーロッパの国々	ブランドの歴史を紐解く
9.科学技術の進歩、西欧文明	本・紙は要らない？
10.対外援助の問題点を洗い出す	国際社会学
11.自由貿易の矛盾は解消できるのか？	地産地消、自給自足？
12.遺伝子組み換え食品を検証する	グローバル化と食文化、スローフード
13.脳の不思議	神秘・未知の領域、神はいるか？
14.外国人就労者の是非を考える	労働社会学、いじめ、パワハラ
15.ベルリンの壁をとったら	独裁主義の支配の特徴と世界社会論

Ⅴ 使用テキスト・教材等
Knowledge in the Making　変容する世界を読み解く　John Barton　SEIBIDO

Ⅵ 参考書・参考資料

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 ( )
配点比率(%)　合計 100		20		80	
英語力を身に着ける				○	
社会学の知識を身に着ける				○	
現代社会と人生について考える		○			

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
英語が自分でできない学生は受講しないこと。高校卒業程度の英語ができない場合は、英語科目を事前に履修すること。各自で現代社会について調べ発表する。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
他の授業等での不参加は認められない。
受講者の状況により内容を変更することがある。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
修了論文	**4**		**国**	**2**	**平井修成**

Ⅰ　主題

研究テーマの設定と研究方法について指導助言をするが、あくまで自分の力で新しいテーマを見つけ、論を組み立てるよう努力してほしい。

Ⅱ　授業の到達目標

1.国語国文学関連の論文が書けること
2.資料が精査され、論旨が通っていること
3.新しい知見が示されていること

Ⅲ　授業の概要

専攻科一年の後期から指導を開始する。一年次の十月末に仮題目を決め、二年次の四月末に本題目を決定する。二年の夏休み中に完成させる。枚数は四百字詰め原稿用紙三十枚以上相当。九月に最終的な指導を行い、十一月の末か十二月の初めごろの修了論文発表会で発表を行う。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.　研究テーマの決定	一年生の後期に研究テーマを絞り込む。
2.　題目の決定	4月25日に、最終的な題目を届け出る。
3.　面接相談	複数回の面接相談を行う。
4.　Webによる面接相談	主に、夏期休暇中などに行う。
5.　論文提出	9月3日(月)。
6.　修了論文発表会	12月頃に予定されている。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

必要に応じ指示する。

Ⅵ　参考書・参考資料

必要に応じ指示する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 (　　)
配点比率(%)　合計 100			80	10	10
論文内容			○	○	
発表				○	○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

下記サイトより、Web による面接相談を受け付ける。
http://www2.tokai.or.jp/daicho/gakunai/sotukenshuuron/swebmensetu.html

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

教員との相談を密にすること。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
修了論文	**4**		**国**	**2**	**瀬戸宏太**

Ⅰ　主題
各自が自身の興味に即してテーマを設定し、説得力のある答えを発見していく。

Ⅱ　授業の到達目標
1.対象とする作品を、丁寧に読み込むことができる。（文学への関心の深化）
2.研究史を把握し、幅広く論文・資料を利用できる。（文学研究の方法に習熟）
3.主張に向け、筋道を立てて論述することができる。（文章の論理的構成力）

Ⅲ　授業の概要
原則として自力で問題を解決していくわけだが、指導は、その進行の節目にあわせて、次の三つを基本に据える。すなわち、テーマ決定前の作品読解の程度のチェック、先行論文など当該テーマに関する研究史把握のサポート、および論文提出後の口頭試問である。中でも口頭試問は緊張感を持って臨み、積極的に批判を受け、これに対する答えを探すことで自説に磨きをかけ、修了論文発表会へとつなげてほしいと思う。

Ⅳ　授業計画と内容
目安として期待される進行状況を以下に示す。なお、1～3 については、既に一年次から取り組んでいることを前提とする。

項目	内容
1.　扱う作品の決定・再読	自分が関心を持てる作品を見つけ、読み直す。
2.　テーマの決定	どのように論じていくのか言葉にする。
3.　研究史の把握	テーマに関して既に論じられていることを学ぶ。
4- 7.　自分の考え方の長所	自分が新たに言えることは何かを見定める。
8-15.　下書きと推敲	説得力を持たせるための試行錯誤。
16-17.　論文提出	自分の論文をしっかり把握し、要約を付ける。
18.　口頭試問	不十分であった点をチェックする。
19-30.　修了論文発表会へ	学位授与へ向けて

Ⅴ　使用テキスト・教材等
各自のテーマに即して用意すること。

Ⅵ　参考書・参考資料
新編日本古典文学全集　小学館
新日本古典文学大系　岩波書店
新潮日本古典文学集成　新潮社

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 （　　）
配点比率(%)　合計 100		20	45	35	
文学への関心の深化			○	○	
文学研究の方法に習熟		○	○	○	
文章の論理的構成力			○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
自力での地道な取り組みと同時に、面接前には進捗状況を整理しておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
論文の出来が不本意だった場合は、提出後の面接で補うこと。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
修了論文	**4**		**国**	**2**	**小野田貴夫**

Ⅰ　主題

専攻科における学修の成果を論文にまとめる。

Ⅱ　授業の到達目標

1.自身の関心に即して先行研究を踏まえながらテーマを設定する。
2.テーマに応じた資料収集、調査、読解、分析等の一連の研究作業を行う。
3.研究の成果を論文の形式にそって書く。

Ⅲ　授業の概要

言語学、社会言語学、日本語学、こどもの文学、宮澤賢治等に関するテーマを扱い、テーマの設定から論文の完成までの手順を解説、指導する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1～2. 卒業論文の見直し	不足の確認と改善の方法
3～4.「はじめに(テーマの設定)」	関心と先行研究との関係について
5～6.「調査方法・結果と考察・まとめ」	論文作成の具体的な手順について
7～8. テーマの設定	問題設定の可能性について
9～10. 主題・問題設定とは	先行研究を踏まえた問題の立て方
11～12. 先行研究との関係	先行研究の調べ方、載せ方
13～14. 調査方法	様々な調べ方・手段について
15～16. 文献調査について	文献、論文の検索／文献による調査
17～18. インタビュー調査、質問紙調査	面接の方法／質問紙の作成方法
19～20. 結果と考察	事実の扱い方と関連付け
21～22. 事実の関連付け(体系化)	事実のまとめかた・示し方
23～24. 分析方法	印象と客観的な根拠の示し方(分析)
25～26. まとめ(論文の完成)	全体的な構成と確認
27～28. 校正と製本	製本する
29～30. 口頭発表	論文の内容を要約し、発表する

Ⅴ　使用テキスト・教材等

資料を配布する

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法／学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 (　　)
配点比率(%)　合計 100		15	75	10	
テーマの設定		○		○	
研究作業		○			
論文の作成			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

各回に配布する資料の再読と課題の実施。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
修了論文	**4**		**国**	**2**	**中村国男**

Ⅰ　主題
各自が自身の興味に即してテーマを設定し、説得力ある答えを発見していく。

Ⅱ　授業の到達目標
1.対象とする作品を、丁寧に読み込むことができる。（文学への関心の深化）
2.研究史を把握し、幅広く論文・資料を利用できる。（文学研究の方法に習熟）
3.主張に向け、筋道を立てて論述することができる。（文章の論理的構成力）

Ⅲ　授業の概要
4 月末に本題目を決定。前期末に論文の構成・あらすじを確定する。夏休み中に論文を作成する。枚数は四百字詰め原稿用紙換算で 30 枚以上。9 月上旬に提出。口頭試問を実施する。一斉授業は行わず、原則として自力で問題を解決していくこととし、進行の節目に合わせて面接指導を行う。さらに各自の感じた課題に応じて適宜個人指導を実施する。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容
1.　研究テーマの決定	1 年次に決めたものを再確認
2.　題目の決定	正式の文言として確定する
3～ 6.　論文の構成・あらすじの確定	仮説、目次、要旨を作成
7～15.　下書き作成	実践　適宜面接指導を実施
16～17.　論文提出	目次を付け、装丁を確認
18.　口頭試問	不十分であった点をチェック
19～30.　修了論文発表会へ	学位授与へ向けて

Ⅴ　使用テキスト・教材等
各自のテーマに応じて用意すること

Ⅵ　参考書・参考資料
必要に応じ指示する

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 （　　）
配点比率(%)　　合計 100			80	20	
文学への関心の深化			○	○	
文学研究の方法に習熟			○		
文章の論理的構成力			○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
自力での地道な取り組みと同時に、面接前には進捗状況を整理しておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
教員との相談を密にすること。